

全国グループホーム団体連合会

地域支援相談員養成事業企画書

1. 目的

- 1) 本人本位の地域包括ケアの実現に向けて、認知症対応型共同生活介護事業所（以下、グループホームとする）が、地域の認知症ケアの拠点としての役割を果たしていくために、事業所や周辺地域で地域づくりを推進できる人材を育成する
- 2) 地域密着型サービスの一つとして、グループホームの利用者が地域とつながって暮らし続けることができるように、事業所の地域交流、地域支援の力を向上させる
- 3) 身近な事業所間連携、地域住民との連携、行政や地域包括支援センター、医療機関等との連携を深め、地域における認知症支援体制の一翼を担うことができる事業所を育成する

2. 募集条件

- ①事業所において、地域交流担当となっているか、あるいはその役割を担える立場にあること（*役職は問いません）
- ②原則として、認知症ケアの現場経験3年以上、3年以下であっても特に管理者が資質を考慮し推薦する場合は可
- ③原則として4回を通して受講できること
- ④募集定員：30名程度
- ⑤受講料：受講料は無料、但し視察等に掛かる実費程度の徴収予定

3. 地域支援相談員研修修了書及びフォローアップについて

- 1) 所定の研修コースの3回以上参加し、レビューの提出を行った参加者に、当連合会の修了書を発行する
- 2) フォローアップの観点から、次年度以降の研修において、実践報告や視察受け入れを行うなど、地域支援の取組みが促進されるようにする

4. 地域支援相談員の活用について

- 1) ホームページや研修・実践報告書（年1回作成）で、県や周辺地域の市町村や地域包括支援センター、地域住民等へ広報啓発を行う
- 2) 地域密着型サービス事業者間の相互研修や情報交換を図り、地域支援の推進を図る

5. 研修プログラム（下記表を参照）

地域支援相談員養成研修基本プログラム

全行程 4 回 (計 8 時間程度)

回数・内容	ねらい	着眼点
<p>1 回目 講義 (90 分) 演習 (30 ~60 分)</p>	<p>◎グループホームの本来の専門性として、パーソンセンタードケアや認知症の生活障害を踏まえた個別支援の重要性を再確認する</p> <p>◎地域包括ケアにおける地域密着型サービスの役割と地域づくりの意義について学ぶ</p> <p>◎グループホームの地域交流や地域支援の実践を学ぶ</p> <p>◎地域支援を推進していく上で、必要な事業所や職員の姿勢、多職種連携、地域連携の重要性、地域コーディネートの方法を学ぶ</p>	<p>●地域支援の大前提として、個々の入居者の意向やなじんだ暮らし方に沿った生活の継続性及び生活障害を踏まえたケアのアプローチができてきているかを振り返り、ケアの実践力の向上を図る</p> <p>●その上で、地域密着型サービスとして、地域の認知症ケアの拠点としての役割があること、どのように役割を果たしたらよいかを実践事例を通して学ぶ</p> <p>●<u>地域支援がグループホーム自己点検シート</u>を活用し、自分の事業所での具体的な実践をイメージできるようにする</p> <p>●地域づくりを推進する人材として何が必要か、自分の事業所だけでなく、地域のさまざまな資源を結びつけるための有り方や運営推進会議の活用等を学ぶ</p>
<p>2 回目 【地域型】 視察研修 (120 分) 【都市型】 ビデオ研修 (120 分)</p>	<p>◎地域密着型サービスにおける地域支援の実際を視察し、あるいはビデオ視聴により、実践プロセスと実践課題を明確にする</p> <p>*都市型はビデオ視聴 (模擬訓練、認知症カフェ、相談窓口などの先進事例) の後、右記の着眼点について受講生間で意見交換を行う</p>	<p>●認知症 SOS ネットワーク模擬訓練や認知症カフェを中心とした先進事例を視察する</p> <p>●行政や地域包括支援センター、認知症医療センター、地域住民、地域商店や小中高校、他事業所等との連携の在り方やプロセスを学ぶ</p> <p>●その中でグループホームがどのようなポジションで、どんな役割を果たせるか、地域性を踏まえて考察できるようにする</p>

回数/内容	ねらい	着眼点
3回目 【地域型】 実践学習 (120分) 【都市型】 ワークシ ョ ッ プ (120分)	◎地域性を踏まえた地域支援の取組み（模擬訓練あるいは認知症カフェ等）に実際に参画し、個々が役割を担う中で、地域支援の重要性を再認識し、グループホームが果たすべき具体的な役割を学ぶ ◎地域支援の活動の中で、事業所が果たす役割には、主導・共催としての立場、地域資源のつなぎ役としての立場、黒子的な立場などさまざまな形（ポジション）があることを理解する ＊都市型の場合、実践が困難な場合は、2回目の意見交換を踏まえたワークショップを実施する。その場合、地域支援の3つの取組みとさまざまな形を軸にしたものとする（別紙ワークシート参照）	●受講生のうち、1～2か所で実際に地域支援の取組みを企画、実施していく ●実際に、企画・実施する中で、事業所や職員が果たす役割や地域住民等の声、地域支援の課題などを考察する ●実際に自分の事業所や周辺地域で実施する際の実践課題を考える ●事業所が果たす役割には、さまざまな形（ポジション）があつていい。地域性や実践課題を踏まえて、柔軟かつ積極的な姿勢を持つことが求められる
4回目 【地域型】 講義または実践発表と振り返り (120分) 【都市型】 (120分)	◎研修全体を通して得たことを振り返り、地域の認知症ケアの拠点としての役割を果たすために、事業所や職員に求められる姿勢や取組みのために必要な課題を明確にできる ◎自分の事業所だけでなく、周辺の事業所や地域住民等に地域づくりのサポートをするための方法を学ぶ ＊実践報告会やワークショップ等、主催地域の状況に応じて企画する	●実施事業所や地域住民等の意見を含めた実践報告を行い、それを通して、事業所や職員に求められる姿勢や実践課題を抽出できる ● <u>地域支援型グループホーム自己点検シート</u> を再確認し、今後の実践に向けた <u>行動計画書</u> を作成する ●地域づくりのサポーターとしての役割や方法についてディスカッションを行う

<終了後まとめと提出物>

- 1) 各研修レビュー及び地域支援型グループホーム自己点検シート、行動計画書の提出
- 2) 終了後6カ月以内に実践報告書の提出